

# 15 やせい しょくぶつ 野生の植物からトウモロコシへ

メキシコ市の南240キロのところにあるテワカン渓谷に、いまからおよそ7000年まえ  
古代のインディオがすんでいたどうくつがある。インディオは何世代もそこにすみつけ、  
食べもののこりカスなどを、そのどうくつにすてていたんだ。インディオたちは  
トウモロコシを主食にしていたから、そのゴミのなかにはたくさんのトウモロコシの芯も  
すべてあったんだ。それをしらべてみたら、おもしろいことがわかったんだ。



▼原始トウモロコシ



うつくしいピンクの絹糸

ラテンアメリカからヨーロッパへトウモロコシがわたったのは、さいしょは食べることが目的じゃなかつたんだ。絹糸の色がとてもきれいだったので、王様は自分の庭にトウモロコシをうえさせて観賞したんだよ。日本でも織田信長が絹糸みてたのしんだんだ。

いまのトウモロコシ

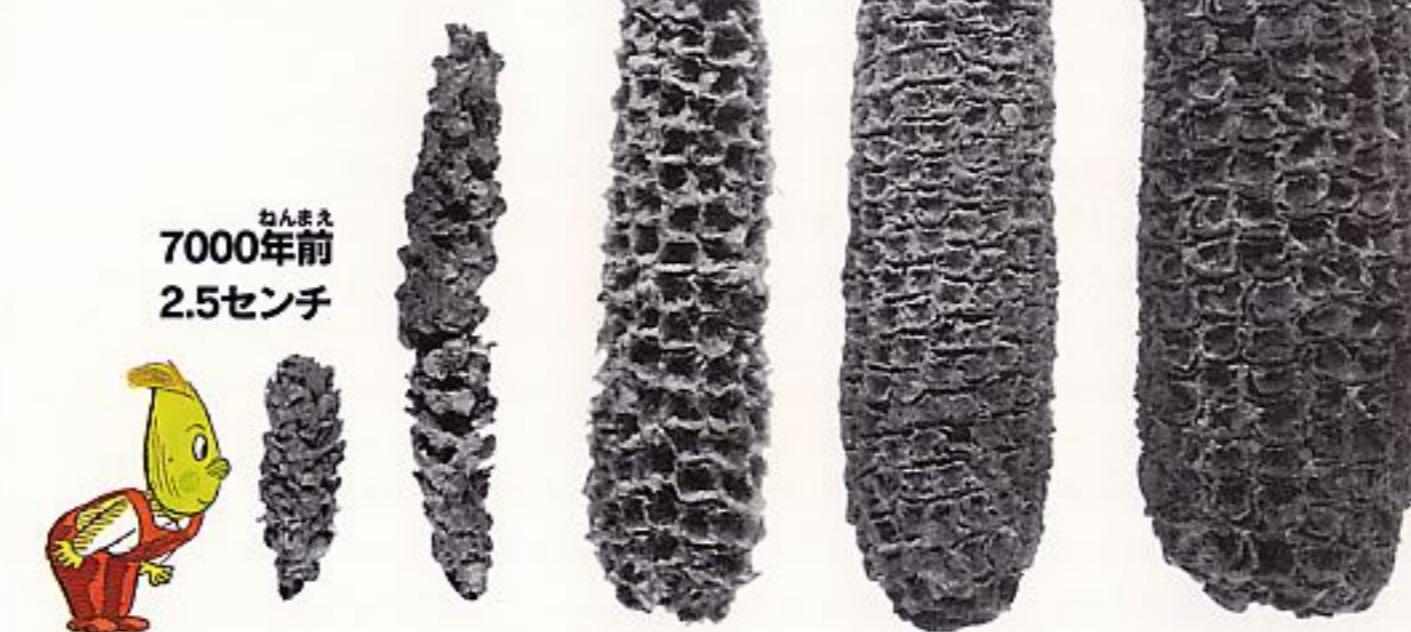


500年前

## トウモロコシの芯からわかる農業のはじまり

ゴミの山をほりかえしてみると、いちばん下の7000年まえの地層には2.5センチくらいのコーンの芯がすててあり、そのすこし上には4センチくらい、というように上にいくにしたがつて、芯はすこしづつおおきくなつていつたんだ。そしていちばん上のものは、いまから500年まえのもので、おおきさは、いまのものにとてもちかかつたんだ。このようにインディオはむかしからトウモロコシを改良して栽培していたんだね。

7000年前  
2.5センチ



炭化したトウモロコシ：じっさいのおおきさとおなじ

